

# 八雲の図書館建設基本構想（案）

平成 25 年 11 月現在

はじめに

平成 24 年の秋、八雲町出身の小松昭夫氏（小松電気産業(株)取締役社長）が藍綬褒章を受賞されました。故郷に何か役立つことがしたいとのご意思を伺い、合わせて小松氏の日ごろの考え方についてお聴きすることができました。

八雲町は周藤弥兵衛翁に象徴される通り、歴史と文化の香り漂う自然豊かな地域です。切通しには、今も弥兵衛のノミの跡が残っています。八雲を洪水から救いたいという弥兵衛の思いが、岩を砕く槌音となって聞こえてくる場所です。私たちには、先人の尊い志を後世にバトンタッチしていく使命があります。また、観光の素材としても弥兵衛の偉業をもっとアピールしていいのではないかと思います。

さらに、八雲に滞在し安部栄四郎記念館・しいのみシアター・かやぶき交流館などへ自らの生き方を探しに行くとか、そこでゆっくりと生き方を考えてみる。そのような滞在型観光地としての八雲を考えてみてはどうでしょう。

そのためには、世界から見た日本というグローバルな視点で歴史・文化を学ぶことが大切です。その上で八雲の地の利を生かして、子どもから大人まで善い環境・善い文化に触れながら、学ぶことが大好きだという文化圏をつくる必要があります。そうした八雲の新たな創造には、地域に根ざした女性の経験と感性を大いに取り入れることが不可欠ではないでしょうか。

このような小松氏の思いを受けて女性数名が集まり、地域の現状と望んでいること等を話し合っていました。

## 1. 趣旨

子どもたちが本と出会い、本を楽しむことができる環境を創っていくことは、子どもの成長にとって大変重要です。ぜひ、八雲に図書館をつくることを発案いたします。

そして図書館を中心に、誰でも気軽に立ち寄れる地域住民のふれあいの場を構築し、人材育成と地域の活性化を目的とします。

人の集まる場所には文化ができるように、ITで情報を受発信し、国の内外から人が集まる図書館づくりを目指します。

## 2. テーマ

「人と自然と本」の出会いが世界をつなぐ

### 3. 基本構想

#### (1) 屋根のある広場・憩いの場としての図書館

- ①子どもから高齢者・障がいのある方など誰でも気軽に立ち寄り、分かりやすく使いやすく、ゆったりとした空間で、心地よく利用できる安全で安心なところ。
- ②単に図書の貸出のみを行う施設ではなく、お話会・読み聞かせ・講演会・講座・音楽会・映画会などの開催や、談話室やカフェをもち、人と人との交流の場となり、楽しい時間を過ごすことができるところ。
- ③八雲支所・公民館・小学校の近くに在ることが望まれる。

#### (2) 連携強化の図書館

- ①学校図書館とのネットワークを構築し、子どもたちが学校にしながら、授業に必要な図書の貸出を受けたりすることが可能になるとよい。
- ②子どもたちを本の世界に誘い、知識の入り口に案内する役割も担う。
- ③司書の役割が最重要。

#### (3) グローバル社会に対応しゆくプラットフォームとしての図書館

- ①急速な時代の変化に即応し適切な判断を行うには、判断の参考になる情報を収集し、新たな知識を絶えず学習することが必要である。  
そのためにはITの活用が不可欠となり、学習室やインターネット環境など学習環境の整備も必要となる。
- ②資料の充実及び貸出手続きの効率化が求められる。特に、印刷資料だけでなく、CD・DVDなどの視聴覚資料の充実、さらには電子書籍などの電子媒体を活用したサービスの導入も必要となる。
- ③様々な地域の課題を解決していくための知識習得の拠点、まちづくりの起点ともなる。

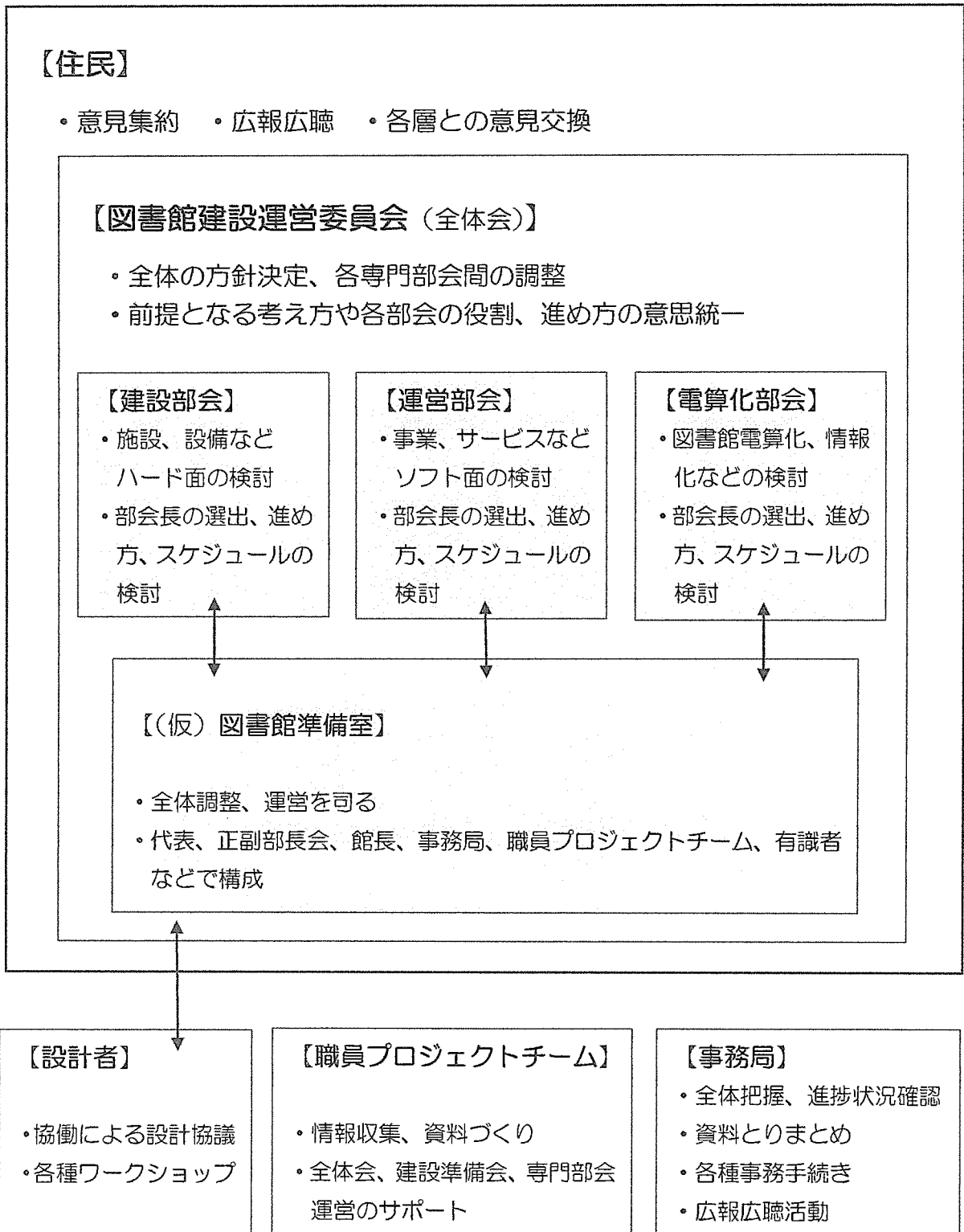
#### (4) 郷土資料の継承・文化創造の図書館

- ①郷土の先人たちが築いてきた歴史や文化を、次の世代に継承していくために、それらを学ぶ拠点となる。
- ②郷土資料のデジタル化に取り組み、それらを半永久的に保存すると共に、次の世代に継承していくために情報発信をする。
- ③郷土学習会や発表会の開催を通して、新たな文化創造の支援をしていく。

(5) 地域住民と共に育てる図書館

- ①子どもから若者、高齢者世代まで、多くの人々の参加によって行われるボランティア活動と、図書館の事業とが協力することによって、図書館サービスがさらに充実し、豊かになることが期待される。
- ②そのためには、図書館が開かれた社会参加の場として、図書館の活動にボランティアを生かす体制づくりが重要となる。
- ③ボランティアの人材育成と活動の支援のために、ボランティア活動を行う場を提供する。
- ④読み聞かせ以外に、図書の整理・補修など様々な活動にボランティアとして参加いただくための図書館サポーター制度の確立を目指す。

## 図書館建設運営委員会組織（案）



## 八雲の図書館 建設にあたって

1) 名称案：小松文庫、八雲文庫、ブックカフェ八雲・・・

公共図書館・・・原則として館内での会話、飲食ができない。

私設図書館は「ブックカフェ」「コミュニティーライブラリー」として開設したい。

近所のコーヒー店と共同でできないか？

2) コンセプト：

①人と人のふれあいの場 人とほんとの出会いの場 八雲の自然と文化を感じる場

②火・水・木・風を感じる図書館

③ふるさとを愛し、世界平和を希求する人材を育成する図書館

3) 図書館の建設

①火のある図書館・・・薪ストーブ、またはペレットストーブ  
・・・炎を囲んで談話、読書

②水のある図書館・・・ビオトープ（メダカの池）  
周藤弥兵衛のコーナー（本とDVD）

③木の図書館・・・ログハウスあるいは木をふんだんに使った建物

④風を感じる図書館・・・風力発電

4) 図書館の運営

建設まで・・・「建設委員会」？

開館後・・・「運営委員会」「支援ボランティア」

運営委員会・・・館の運営方針等の企画、実施、イベントの実施

イベント例：ミニコンサート、映画会、お話し会、子ども祭り・・・

司書？の配置・・・貸出業務、書架整理その他

支援ボランティア・・・館内外の手入れ（手作り書架、ビオトープ、草刈、薪づくり  
などなど）

## 参考図書館

曾田文庫・・・松江市雑賀町

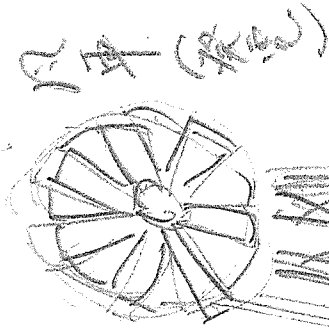
城北小学校図書館

城北公民館「モーニング・ブックカフェ」

「山の図書館」・・・雲南市大東畑鶴 NPO 法人くらしアトリエ

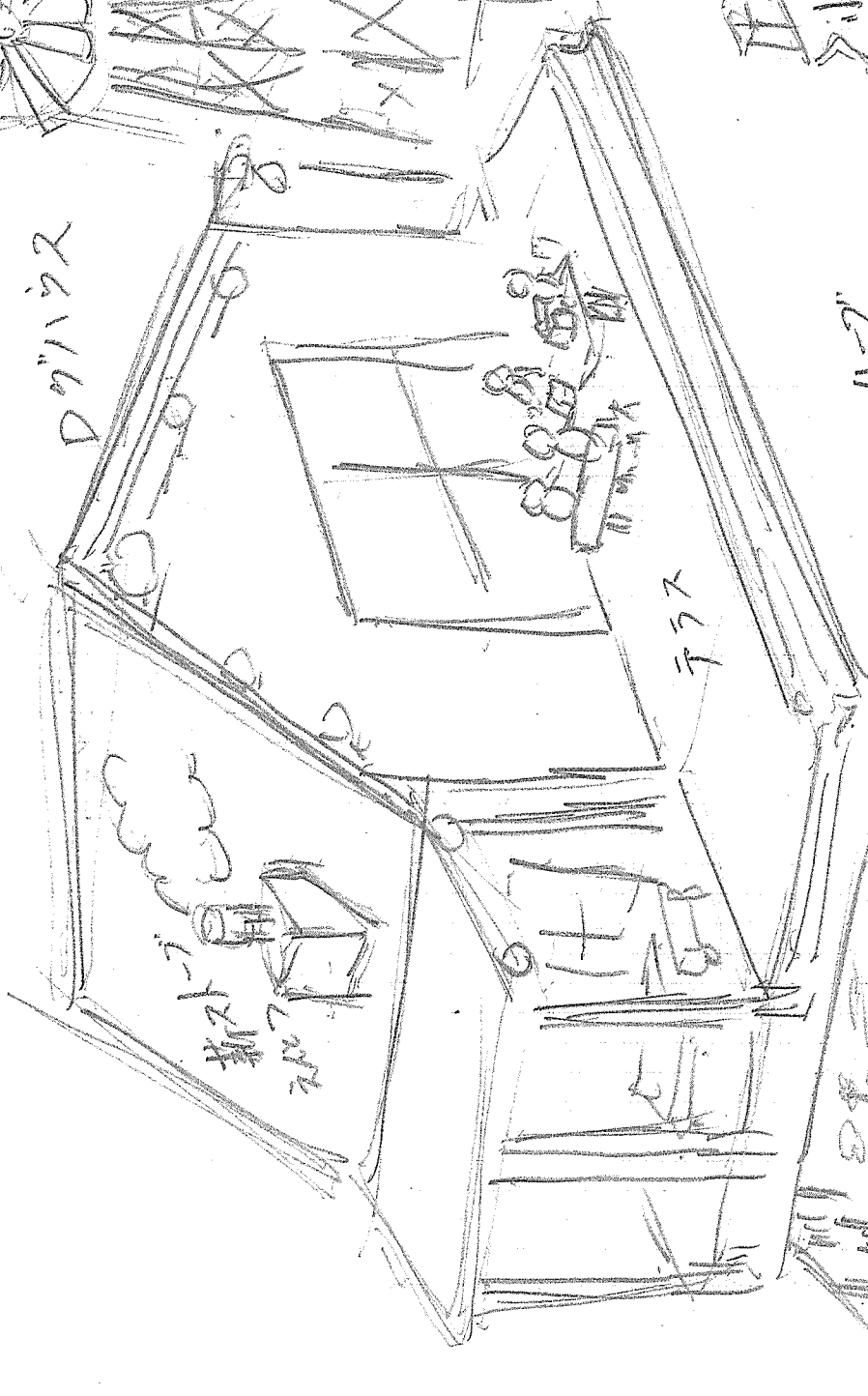
「キッチンスタジオ等」・・・松江市西川津町

シメント  
火・水・木・風



風車 (模型)

博覧会  
入場券



Dグハズ

テーブル

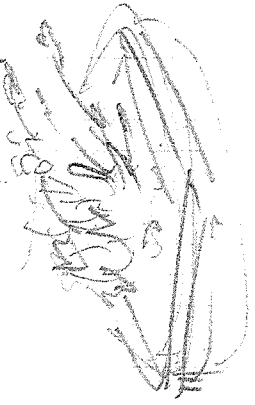
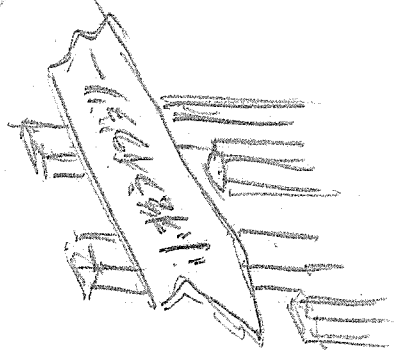
11-7

セメント

木ノ子

115

115 4



※曲線